

# NPO大学“マナビ塾”2021

特定非営利活動法人 市民事務局かわにし



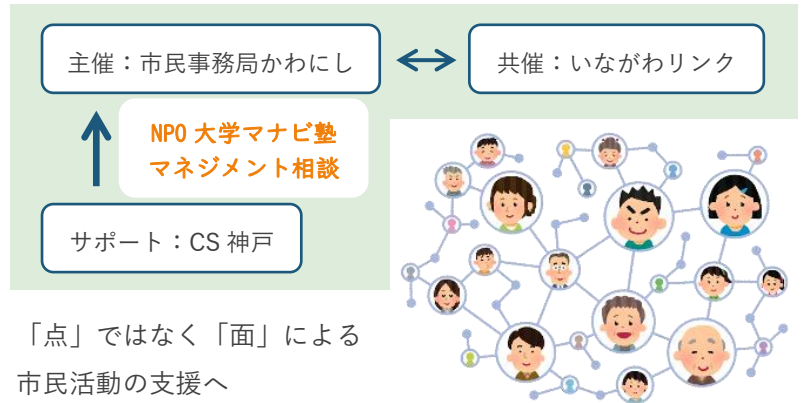
## 24年間の積み重ね

・「NPO 大学」事業は、1997年に神戸で産声を上げ、兵庫県内 NPO 法人の持続可能な運営を目的に「NPO マネジメントスクール」、「NPO 大学」、再び「NPO マネジメントスクール」、そして「NPO 大学“マナビ塾”」と呼称を変えながら 23 年間実施されてきました。

・長年の運営主体であった「認定 NPO 法人 CS 神戸」からバトンを引き継ぎ、2015 年度より「NPO 法人市民事務局かわにし」が実施しています。

## 成果

中間支援の相互エンパワメントと地域情報の交換



「点」ではなく「面」による  
市民活動の支援へ

## NPO 運営のエッセンスを 2 日にギュッと凝縮!

内 容	詳 細
はじめに	あいさつ・オリエンテーション・簡単な自己紹介
<講義>中村順子さん 「ウイズコロナをどう乗りきる?」	アフターコロナを視野に、多様なセクターとのネットワークで地域の課題やニーズに対応し、持続可能なNPOをめざしていく
<講義>當間克雄さん 課題分析のための「SWOT」手法	NPO向けにアレンジした「SWOT」分析を、特に「OT」視点にフォーカスして学ぶ
休 憩	
<ワーク>アドバイスを受けながら 「SWOT」分析表を作成 (OT視点も配慮)	自組織を「SWOT」で分析して課題を抽出する (自団体に持ち帰って組織内でもワークができるように習得する)
休 憩	
<発表> 「SWOT」分析結果	現時点での課題を抽出した「SWOT」を 発表しあい共有する
おわりに	簡単なふりかえり・あいさつ・アンケート①

## 実施報告

- ・日時：①2021年11月5日(金) 13:15-16:45  
②2021年11月16日(金) 13:15-16:45
- ・会場：川西市 市民活動センター  
男女共同参画センター
- ・共催：NPO 法人いながわりリンク
- ・参加：① 7人 (NPO 法人、任意団体、その他)  
② 8人 (NPO 法人、任意団体、その他)

### <参加者の感想>

- ・団体の整理ができて目標が明確になったのでよかったです。
- ・3団体でのコラボは考えつきませんでした。一度始めてみます。
- ・つながりができました。

内 容	詳 細
はじめに	あいさつ・本日のメニュー説明・簡単なふりかえり
<講義>當間克雄さん 課題解決への「戦略マップ」「BSC」	「SWOT」分析から「戦略マップ」さらに「BSC」(バランススコアカード)への展開を学ぶ
休 憩	
<ワーク>アドバイスを受けながら 「戦略マップ」→「BSC」を作成	「SWOT」分析で抽出した自団体の課題を、「BSC」手法で、次年度「事業計画」にもつながるように展開する
休 憩	
<発表> 「BSC」作成結果	各団体の「BSC」を発表しあい共有する
<まとめ> 2回の「マナビ塾」を総括	各講師からの講評を聞く
おわりに	あいさつ・集合写真を撮る・事務連絡・アンケート②



# 「世代結び～持続可能なコミュニティのための多世代交流～」事業報告

 特定非営利活動法人きょうどうのわ

## 1、事業が目指すところ

きょうどうのわは、六甲アイランドで近年増加している子育て世代の仲間づくりや相談の場づくりを行ってきました。若い世代と関わる中で、シニアと子育て層以下の世代のすれ違いが大きく、接点がない、交流の機会が足りないという問題を重く受け止めるようになりました。同時に、コロナ禍で島外との行き来が減った経験から「楽しみ事も困り事も島内で完結させること」の必要性に気づき、世代を越えてコミュニティ内で支え合う関係づくりが、より重要になったことを痛感しています。そこで、六甲アイランドでの活動のポイントを人と人・団体と団体の「多世代交流」に置き、昨年度から「世代結び」と名付けた本事業に取り組んでいます。六甲アイランドの地域活動や住民自治が持続可能になることを目指しています。

## 2、活動内容と成果

### 報告交流会・2021、7、11@神戸ファッション美術館セミナー室

昨年度の団体相互訪問に参加した 24 団体から 34 人が参加し、世代や活動分野を縦横につなぐ交流ができました。多くの団体が課題と考えている「広報」をテーマに話し合い、シニア世代から「若い団体のように SNS を利用してみたい」などの発言も。団体の関係が、昨年の『相互理解』から『連携』に進むきっかけになりました。



### RIC ファミリーあそびのひろば・親子の活動体験を 5 団体が受け入れ

六甲内の公共施設や、ボランティア団体と連携して「あそびのひろば」を実施、4～7 歳の親子 15 組が参加しました。子育て世代が地域活動に関心を持ち、活動団体が子育て世代を理解する接点、交流機会になりました。



RIC リボンプロジェクト



美緑化 RIC の会



六甲アイランドを美しい街にする会



地域猫の会 P.A.W.S.



コミュニティライブラリーボランティア

## 3、成果や課題・反省点

昨年度から①団体相互訪問の取り組みを多くの活動グループが歓迎→②多様多数の団体が存在することを認識→③それぞれが街を支えていることにお互いに感謝→④団体間で課題や情報を共有→⑤連携・協働に至る、というプロセスを想定し事業を進めて来ました。④の入り口までは 7 月の報告会で到達できたと考えています。秋からの「あそびのひろば」に 5 団体が参画し成果はあったものの、⑤は今後の課題と考えています。現在、追加 10 団体の調査が終了し 2/20 報告交流会で④⑤に取り組む予定です。あそびのひろば最終回を 3/27 に延期するなどコロナの影響を強く受けました。

## 4、今後の展望、成果の活用

昨年度今年度合わせて 34 団体を訪問し顔の見える関係を築きました。子育て世代とも人脈ができました。2021 年 10 月に当法人がオープンした「コミュニティスペース・RIC のわ」は多世代・多機能・常設を謳っており、ここを起点に、多様な世代・団体が多様な形で連携する活動を産み出し、持続可能な支え合いの地域づくりができればと考えています。

～ちょっとした住民のお困りごとを住民がお手伝い  
ワンコイン生活支援活動～



(南甲子園つなぐ会) 「まちのよろず屋」

【活動時間】

受付 月曜日～土曜日 9時～17時

活動 月曜日～土曜日 8時～18時

【活動地域】

南甲子園・浜甲子園

【料金】

・利用者 利用料 10分 100円 /30分 500円  
その後30分毎に500円プラス

・活動者 活動費 10分 100円 /30分 400円  
その後、利用料の80%を活動費としてお支払い

【活動までの流れとコーディネーターの役割】

安心して、利用や活動ができるように、「コーディネーター」が常時サポートいたします。

①登録 年齢に関係なく、利用者も活動者も登録していただけます。

(利用者) 年会登録費 500円

(活動者) 年会登録費 600円 (500円ボランティア保険 100円事務手数料)

②依頼・相談

本人・家族・地域  
包括・居宅介護支  
援事業所・その他  
などからの依頼・  
相談をコーディネ  
ーターが受けま  
す。

③訪問・依頼

内容のヒアリング

コーディネーター  
が訪問し、その際  
に依頼内容や相談  
をお聞きします。

④活動者の決定・  
報告

事務所に戻り適任  
者をコーディネ  
ーターへ連絡。活動  
者決定次第、利用  
者へ報告

⑤活動

初回訪問は  
コーディネ  
ーターが  
同行します。

⑥清算・報告

活動サポーター  
へ清算。他機関  
からの依頼で気  
になることがあ  
る時は、必ず連  
絡。情報共有。

【活動内容】



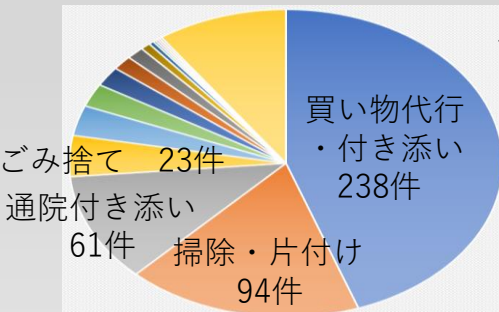
買い物同行

双子ちゃん  
とお外遊び

草抜き

犬の散歩

【活動実績】 実施件数 534件 (2021年4月～2022年1月)



【それ以外の案件】

ペットの散歩17件  
草抜き13件  
振り込み代行11件  
話し相手8件  
外出付き添い7件  
粗大ごみ処分4件  
行政手続き代行2件

その他案件 (ゴミネット回収・保育園送り迎え・水やり)

【今後の展望】

依頼の入り方は、地域包括からが多く、制度では賄えきれない事や突発的に起こる困りごとなどに対応してきました。

逆に本事業から、地域包括へつなげた案件もあります。

今後も、他機関・地縁団体との連携を強化し、より地域の課題や困りごとと向き合っていきたいです。

また、住民の困りごとを住民で解決し、住民のつながりも広げていきたいです。そのためにも、次世代の新たな担い手発掘にも力をいれていきます。

そして、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。

〈基本事業〉

1. 事業が目指すところ

NPO 活動を行う団体や個人が事業を実施するにあたって抱える様々な運営に関する悩みや問題を解決するため、中間支援組織であるコムサロン21が持つ多様なノウハウやネットワークを活用して課題を持つ団体等のサポートを行う事業を「播磨 NPO 中間支援センター」と位置づけ、地域の NPO 等の活動を具体的に解決できる拠点として、総合的な運営支援を行う。

2. 活動内容

◎相談

時	法人名	相談内容	担当
6月8日(水)	赤穂市こども食堂	現在の事業の法人化について	前川
6月23日(水)	(株)クズナズン	運営相談。販促のネットワークの構築やイベント支援の相談	前川
7月5日(月)	(株)ETTO	姫路市で国際的なファッション文化を育てるためにファッションショーを実施したい	前川
8月5日(木)	NPO あかりの街姫路	姫路市と協働するあかりの実験実施について	前川
8月7日(土)	NPO あかりの街姫路	姫路市と協働するあかりの科学館との連携について	前川
12月5日(日)	個人	ケアマネージャーから独立してケアマネージャーと介護タクシーの事業を起業したい	李



◎情報提供・ネットワーク

日時	場所	参加団体数	参加人数	内容
5月11日(火)	姫路市市民会館	8団体	13名	助成金、補助金説明会 情報交換会
7月13日(火)	姫路市市民会館	7団体	19名	情報交換会
9月11日(火)	姫路市市民会館	11団体	22名	情報交換会
11月9日(火)	姫路市市民会館	8団体	13名	情報交換会
1月11日(火)	姫路市市民会館	7団体	13名	情報交換会

◎人材育成

大学生インターンの受入れ

受入れ人数3名

日時	実施内容	体験
8月11日(水)	ショートワークで三方よし	セミナー運営
8月16日(月)	ぷちたぷち	ひきこもり支援
8月17日(火)	女性のための起業応援カフェ	セミナー運営
8月22日(日)	亀山御坊楽市楽座	イベント
8月24日(火)	若サポオンラインセミナー 志望動機を書いてみよう	学び

3. 成果や課題点

情報交換会は、2か月に1回定例で開催することにより、参加団体の情報効果や関係は深くなった。姫路市内の出席が定着しているが、周辺市町の団体の参加が少ない。

4. 今後の展望、成果の活用

地域づくり活動の団体は出席いただけるが、福祉関係の NPO 団体の出席が少ないのが課題で、今後の呼びかけの仕方を改善していきたい。また、周辺市町の団体については、距離の問題もあるので、オンライン併用で実施していきたい

〈企画立案事業〉

1. 事業が目指すところ

防災に関する情報収集と情報発信のため県内の防災会議等に参画し、播磨地域の団体に対して情報収集発信を行う。また「第3回ひょうご安全の日のつどい in 姫路(R.4.1.17 開催予定)」を継続開催して市民の防災意識の向上や、関係団体との「平時からの信頼ある相互ネットワーク」の強化を図る。自然災害に加えて、WITH コロナ社会の中での地域活動の支援方法や対策をネットワーク会議等で協議しながら広域化の為の連携を図る。

2. 活動内容

◎防災セミナーの開催

日時	場所	参加団体数	参加人数	内容
5月11日(火)	姫路市市民会館	8団体	13名	助成金、補助金説明会
7月13日(火)	姫路市市民会館	7団体	19名	SDGs
9月11日(火)	姫路市市民会館	11団体	22名	災害時アプリ
11月9日(火)	姫路市市民会館	8団体	13名	70歳就業法
1月11日(火)	姫路市市民会館	7団体	13名	安全の日のつどい in ひめじ準備会議

災害時に役立つアプリが多数リリースされているなか、今回は「NHK ニュース・防災アプリ」と「スマ保災害時ナビ」を紹介。アプリによって、地図データとスマホのカメラが連動され、いち早く避難場所へ避難できる、また翻訳機能でインバウンドや外国人労働者にも対応している。事前にアプリをダウンロードすることで、自らの命を守ることが出来る。自治会や公民館での告知セミナーを開催したいとの感想があった。



・SDGs セミナー

「気候変動の具体的対策」として、気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能、実際に行われている取組についてについて学んだ



◎防災イベント

『ひょうご安全の日 in 姫路 2022』

阪神・淡路大震災を風化させない「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」をテーマに、JR 姫路駅にコンコースに於いて、ポスターセッション・防災情報の発信・防災マップ、防災グッズの展示、PR を行い、一般市民の方へ啓発活動を行った。



3. 成果や課題点

防災については、3回の会議によって、人間関係も深まり、また、1. 17のイベントの実施を通じて、顔の見える関係づくりとなってきた。

4. 今後の展望、成果の活用

1. 17ひょうご安全の日イベントは、その啓発活動は全県に広めていく手段としては、姫路モデルがいいのではないかと思います、行政にも提唱している。  
防災対策は一過性のものでなく、常に啓発していくものであるため、できれば、地域全体の事業として広がっていくように次年度も取り組んでいきたい。

TAMBA Social Relations Project

# 「社会的つながり」プロジェクト

～コロナ禍に負けない市民発アプローチで地域の支え合いを生み出すために～

「ソーシャル・ディスタンス」の上に、「社会的つながり」を地域に生み出す重要性  
 感染症対策や医療的対策の着実な進展は大前提としつつ、市民的な視点から、孤立する人々を含む市民が支え合うための「社会的つながり」を地域に生み出していくことが重要になっている。

## 今こそ「社会的つながり」を生み出す丹波市域の市民活動・住民自治活動の価値を共有

丹波市域では、これまでも市民活動団体や住民自治組織等が社会的孤立を防ぐ・解消するために、地域で支え合う活動を生み出し、取り組んできています。これらの活動には今後活かすべき要素が多く含まれています。それらをしっかりと応援し、さらに新たな支え合いにつなげていくためにも、活動情報や成果・課題・価値等を収集・記録し「地域自治の共有財産」として公開、「社会的つながり」を多く生み出し、コロナ禍に負けない地域づくりにつなげていく。これら一連の取り組みを「社会的つながり」プロジェクトと呼び、丹波市域にまたがるムーブメントとして展開。

## 中間支援組織「たんえん」が呼びかけ、プラットフォームをつくり、プロジェクトを推進

「たんえん」は、市民活動や住民自治活動を伴走支援する中間支援組織です。丹波市域の住民自治組織や社会福祉協議会など志を同じくするみなさんとともにこのプロジェクトを進めていく。

主催・呼びかけ：NPO法人丹波ひとまち支援機構（たんえん）

連携・協力：（社福）丹波市社会福祉協議会 / （株）ご近所 /

丹波市市民活動支援センター・人権啓発センター・男女共同参画センター

## プロジェクト全体像（取り組んできたこと）



- ①交流 キックオフイベント（コロナで延期し10/3 参加者：35人）交流会（12/4 参加者：25人）
- ③連携 上記いずれも特徴的事例に学ぶ時間、テーマを決めて取組主体の交流・情報交換等を内容とした。4つの特徴的事例の報告は詳細をポータルサイトにも読み物として掲載。プロジェクトへの寄付募集：参加者から計約2万円 / MLの開設
- ②収集 新聞3紙掲載情報をもとに網羅的に丹波市域の事例収集／分野・主体等分析、関係機関把握情報の照会・整理→取りまとめ中。ポータルサイトに一覧掲載予定（2020年4月～の情報で60以上）
- ④発信 ポータルサイト<http://tamba-tsunagari.net/> 開設 新聞3紙に掲載、丹波新聞元旦特集号が特徴的
- ⑤報告 3/6に报告会&シンポジウムを開催予定。調査結果や今後の取組について有識者とプロジェクト構成メンバーでのディスカッション。 これらを取りまとめた報告書を発行予定。

# あなたの声で地域の物語を届けよう～シニア×オンライン～ふるさと学習～

## 生涯学習応援隊so-so.39

### 【活動の内容と進捗】

1. (公財)兵庫県丹波の森協会が編纂された「丹波のむかしばなし」119話を動画にしてYouTubeに公開しよう！という活動です。昨年30本、2年目も目標30本、残り2本です。がんばった～ 動画制作者はなかなか増えませんが、朗読者は新顔が並びました。地元の高校生も参加してくれて嬉しい限りです。
2. 地元住民の自費出版や、地域新聞のコラムを読んでネットラジオで公開してます。加えて著作権フリーの童話や名作を読んでいます。声だけで伝える朗読は少しハードルが高いのか、こちらはなかなか読み手が増えません。こちらの目標も30本ですが・・・頑張ります！



### 【活動の成果と課題】

- 制作の手順は、  
朗読者に題材を振り分ける→  
練習してスマホ等のレコーダーに録音する→  
LINEで事務局に送付→  
動画編集者に振り分ける→完成で公開  
コロナ禍において、ネットを活用してやり取りをしました。こんな状況でも活動できることを朗読者は喜んでくれました。
- 高校の放送部も協力してくれました。こちらも、ネット活用で、集まらなくてもいいので顧問の先生も快く了解してくれました。
- ご縁があって、丹波篠山市の高齢者大学や丹波OB大学院の生徒さんにも参加いただき「表現の場所があったよかったです」と喜んでいただきました。
- 動画編集の方は、学習しないとできないので、担当する人を増やすことができませんでした。 **(課題)**
- 朗読者はやる気満々なので、来年度もできる限り、残りのお話の動画制作を続けようと思っています。



むかしばなしのサイト



ネットラジオのサイト



# プラットフォーム淡路島 島人交流と緊急・災害時の継続計画づくりで、 より安心して暮らせる地域づくり

(プラットフォーム淡路島)

## 1 事業が目指すところ

令和3年度の事業の事業は以下の2つです。

- ① 転ばぬ先のプランづくり…30年以内に確実に島を襲う南海トラフ地震、新型コロナウイルスの感染の波が今後も想定される等々。それらの災厄の備えの一つとして、災害が発生しても、従来の事業が素早く復旧できるよう、あらゆる視点から対応する想定プラン(シュミレーション)を作っておく必要がある。組織的に弱い中小規模・零細事業者、NPO、各種団体も被災対象となり、大企業に比べてダメージは大きく、復興に時間が掛かる。災害・緊急時に事業を中止・中断の時間を短くするためにも、事業継続プラン(以下BCPと記す)を作成して居てほしいし、作成の意義を知らしめ、手順を学んでもらう。
- ② しまびと交流会…島内の少子高齢化、人口流出は著しい。過去2年間に渡って移住の実態や移住者との関わりを考えてきた。3年度は最近、島を第2拠点と位置付け、某人材派遣会社が移転。各種の事業が短期間で展開され始め、移住された方も増えた。島にとっては刺激や起爆剤となり、就業者が増え、若者の流出を防ぐかも知れない淡い望みを託す。半面、その移住者と居住者は生活様式や感覚(地域格差・年代など)の違いから、双方に日々暮らすなかで違和感や軋轢が生まれつつある。お節介だが、そんな違和感を払拭し、違いを認めあいながら豊かに暮らすためのお手伝いをする機会にしたい。

## 2 活動内容

☆11月20日(土) 南あわじ市広田公民館  
 転ばぬ先のプランづくり 基本講座  
 兵庫県立大学 加藤教授ら

☆11月27日(土) 南あわじ市広田公民館  
 転ばぬ先のプランづくり 実践講座  
 元大学非常勤講師 奈良昭彦氏

☆3月7日(月) 野島スコーラ  
 しまびと交流会  
 某人材派遣会社の移住者との交流  
 1月に予定するも、まん延防止等措置により  
 感染拡大を避けるため順延されてきた事業。



基本講座 講演等



実践講座 ワークショップ

<p>3月7日(月)実施予定          実施次第 添付          (まん延防止等措置解除後)</p>	<p>3月7日(月)実施予定          実施次第 添付          (まん延防止等措置解除後)</p>
--------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------

しまびと交流会の交流状況

まとめと今後のお願い

## 3 成果と課題・問題点

- ① BCP を作成している会社と作成できていない会社の災害後の復旧の速さは、前者は後者に較べ数にして約2.5倍の会社で早かったと評価され、復旧が早く進んだと統計的に証明された。BCPは事業者には有益に働いた帰結である。実践講座で想定範囲・数の膨大さと今まで気づかなかった(頭の中になかった)項目も多かった。作成し、多くの場面でそれらが意味付けられ、有効に活用されるためには、保存・運用・改善補完システム等を充実させることも炙り出された。作成すればそれで終わりではないBCPはあまりにも奥行き深く、幅広い。小規模・零細事業者は少しずつでもいいから、想定事例を積み重ね、体系的に蓄積することが望まれる。具体的にBCP作成に当たって、少人数でもいいから複数の方々(多



くの立場・役職)が想定できる事柄を出し合い、すべての事柄が共有・網羅され、記録されることが望まれた。しかし島内のBCPに対する考え、対応はこれらの考えに追いついていないし、その意識の低さも露呈した。(BCPという言葉は知っているが、どこから手を付ければいいかわからない。作成の人材も、作成する時間も、費用もない。緊急性を感じていない、BCPを作成されているが、見直しや変更・改善が出来ていない、災害の切迫感が薄い、つまり大方の事業者の方々には作成の意義を感じていない節がある。BCP作成への意識は知っていても計画づくりまで達していない。作成の意義や有効性に気づいていない、作成の意義について事業者と担当者に意識の温度差があるなど)の発言もあった。

今回、BCPの必要性を認識した事業者やその責任者をターゲットに開催したが、真口が狭かったようだ。つまり防災・減災の展開の一つとして、未来への想定(シュミレーション)に挑んだが、全般的に島内事業者にはBCPの意義や必要性の意識が未熟であったのかもしれない。今後もBCPやシュミレーションが生かされよう、BCP作成の大切さ・重要性を多くの機会・場で発信し続けていかなければならない。

②しまびと交流会は事業実施終了後、追記します。※

#### 4 今後の展望、成果の活用

##### ①転ばぬ先のプランづくり

災害は待ってくれない、腰を据えていては遅いかもしれないが、防災・減災の学習・啓発活動・避難訓練等の機会に、BCPの必要性・重要性・復興のスピードの速さについて発信していきたい。

今回、使った資料は、出席者、各市社会福祉協議会に提供し、事業者やその職員教育に活用して頂けるよう、データで提供した。

##### ②しまびと交流会(事業終了後、追記) ※

島に少しでも長く、居住者とうまく付き合いながら豊かに暮らしてもらうためには、地域の多くの機会・場面(学校や祭りも含む)に参加し、交流することで、理解しあえ、顔見知りになって人間関係を作られ、それが双方向に展開されることが大事である。

居住者も地元の良さ、ふるさとの誇りをしっかり伝えて頂き、緩やかに最小公倍数的な暗黙のルールづくりが醸成されるような仕組み作りを創り出すこと必要がある。私たち居住者は、自らの価値観を押し付けるだけでなく、抱きとめる許容力や韌性を持たなければならない。島においていただいたことに感謝し、共に支え、支えられる社会であり、将来展望を持ち、良心に鑑み、お付き合いが深められたら幸いである。

しまびと交流会の内容は、報告書としてまとめ、某人材派遣会社にお渡しすることとしている。某人材会社は社会貢献の一つとして、交流の意義を示してもらえているので、今後も定期的に交流やふれあいを重ねていきたい。交流で得た情報や悩み・思い・意見はコアメンバーの活動の場で発信し、偏見なく伝えていく。

# 「ひと」にスポットをあてた淡路島のローカルメディア運営

特定非営利活動法人 島くらし淡路

## 先輩移住者や地域住民と気軽につながり、仲間になっていくしくみ [COTOCO コトコ]

◆ 去年度、「ひと」を中心においたローカルメディア「CO TO CO」を立ち上げた。今年度はさらに移住者と地元住民がまざる仕組みをつくり COTOCO に携わる人を増やし、インタビューや交流会を通じて仲間を増やすこと。また COTOCO サイトを多くの方に見てもらえるようにコンテンツについても検討していくことを目的とする。

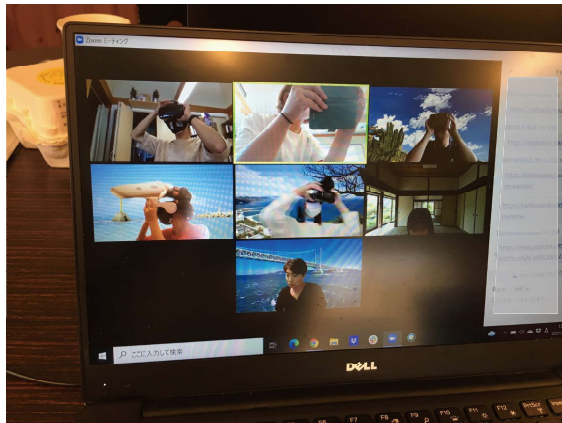


## 活動内容

### 9/5 COTOCO ミートアップ

◆ 参加者：7名

◆ 内容：淡路島の人気ブロガー宮内さんを迎え取材やライティングの心得やコツなど。また移住のこと、現在の暮らしや働きかたについても話していただいた。また、Google アナリティクスによるサイト分析では COTOCO の定着率が悪いこと、仕事に関する記事に関心が多いことなど今後の記事やコラムの内容を決めていくための学びとなった。



### COTOCO インタビュー・コラム

◆ AREIN 委員会インタビュー：U ターンの不動産業者に淡路島の住まい事情についてインタビュー。



◆ 子育て、仕事、街おこし活動、地元住民インタビュー等掲載予定

◆ 社会福祉協議会の方を交えての開催となった、毎年行うおそうじ交流会レポート。



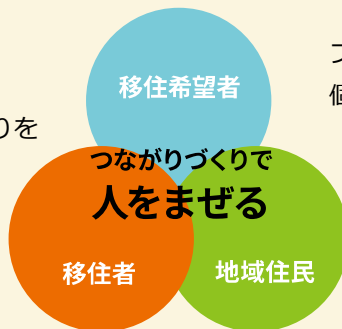
島民ライターや連携する団体とともに「CO TO CO」を利用して情報発信を効果的に行えるように、また新たなコミュニティを形成するためのツールとして活用できるようなローカルメディアを目指しています。

# 淡路島の新たなコミュニティから働きかたを広げる「ひと」育成事業

特定非営利活動法人 島くらし淡路

## 事業が目指すところ

移住者と地元住民の多様な考え方を混在させたコミュニティを作り、新たな働き方や仕事づくりをする人材を増やすことで、淡路島の魅力が増し、多様な仕事増加、移住定住促進や転出者減少に繋げることを目的とする。



フリーランス・在宅ワーク  
個人事業・就農など

1次産業・地場産業・文化  
地域行事

↓  
**新たな仕事づくり・人材づくり**

## 活動内容

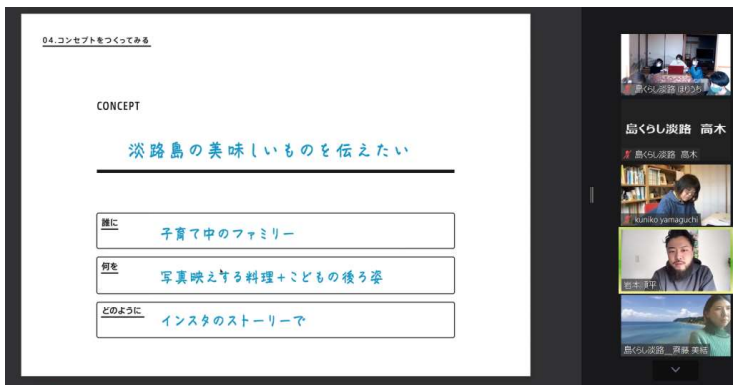
### 2/12 しましまアンバサダー養成講座～動画編①

1 回目：オンライン講座【何を伝える？を学ぶ】

2 回目：現地撮影【どうやって伝える？を学ぶ&実際に撮影してみよう！】

◆参加者：9名 ◆講師：岩本順平（一般社団法人 DOR）

◆内容：コンセプトを客観的にとらえるための SWOT 分析という手法や、ワークシートを使ったコンセプト設定の方法を教えていただく。**そもそも誰のために撮るのか？何を伝えるのか？が「どう撮るか」よりも大事**ということを学ぶ。2 回目は佐野エリアでのワークショップを行う。



ワークシートを使ってコンセプトを考える



会場参加の方の様子

### 淡路島アキナイトーク

島の同窓会～異業種交流会を開催予定。2 月初旬の計画だったがコロナの状況により延期。地元同窓会「ツナ crew」に協力いただき、できるだけリアルでの開催を希望している。参加対象者は 30 代～40 代を中心に募集を行っている。

この事業は「令和3年度ひょうごボランティア・基金助成 地域づくり活動NPO事業助成」により開催します。

## しましまアンバサダー養成講座～動画編～

自分の視点で、感性で、淡路島の良いところを切り取る。うまい歩きを通して地域の魅力を上げる、自分がときどき笑顔を取り戻す。その取戻した瞬間をより広げるように撮影していく。まちと、ひとと、つながる。しましまアンバサダーになりませんか？

vol.1 オンライン  
2月12日(土)  
13:30~15:00  
何を伝える？を学ぶ

●こんな人におすすめ●  
淡路島を知りたい方  
まちのひととコミュニケーション取りたい方

vol.2 現地訪問  
3月6日(日)予定  
10:30~16:00  
どうやって伝える？を学ぶ

参加費  
2回参加 3500円(税込)  
※2回目お弁当付

講師 岩本順平  
\*元職・フリーランス。2017年に退職して移住。2018年中継の同窓会主催の同窓会交流会の企画・運営を担当。2019年、地元同窓会主催の同窓会交流会の企画・運営を担当。2020年、地元同窓会主催の同窓会交流会の企画・運営を担当。2021年、地元同窓会主催の同窓会交流会の企画・運営を担当。2022年、地元同窓会主催の同窓会交流会の企画・運営を担当。

主催 NPO法人島くらし淡路  
協力 NPO法人淡路島アートセンター

◆感想：・コンセプト作りが苦手だったのですが、とてもわかりやすい説明で教えていただいたので考えてみることができました！  
・誰に何を伝えるかのコンセプト作りの押さえ所を再確認できました。  
・新しいチャレンジをしたいと思われている方も増えていると思うので、こういった考え方を教えていただけるのは貴重だと思いました。  
・中高生の娘にも経験したら良いだろうなと思いました。

地元住民と移住者の新たなコミュニティや、そこから生まれる新たな活動や仕事などを情報発信や体験として発信する。それが淡路島での暮らしや働きかたの魅力アップにつながれば、移住促進また関係人口創出につながる。また、体験型の観光や移住前の知り合いづくりの「場」としてコミュニティを活用させていただきたいと考えている。